

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-8011

住 所 東京都中央区築地5-3-2

氏 名 (株)朝日新聞社 代表取締役社長 中村 史郎

(代理人) 常務取締役東京本社代表 小西 勝英 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社 朝日新聞社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市中原区西加瀬19-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	G	情報通信業
	中分類	41	映像・音声・文字情報制作業
主たる事業 の内容	①日刊新聞その他の新聞、雑誌、書籍の制作、発行および販売②各種電子・電波メディアによる情報提供サービス③音楽、美術その他の文化事業の開催		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,894	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	朝日新聞社の環境への取り組みは、社のサイトasahi.comで公開しています。 https://www.asahi.com/corporate/csr/12940413

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況(第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 3,534	(実) 3,771	(実) 3,561	(実) 3,459	(実) 3,919
	(調) 3,446	(調) 3,676	(調) 3,456	(調) 3,432	(調) 3,823
削減率		(実) -6.7%	(実) -0.8%	(実) 2.1%	(実) -10.9%
		(調) -6.7%	(調) -0.3%	(調) 0.4%	(調) -10.9%

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(任意記載)

原単位等の活動量		原単位等の単位			
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量原単位等の値					
活動量の値					-
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	2017年度に開始された生産設備更新工事が2018年度で終了し、2019年度より稼働台数が4→5セットに増加したため、工場での新聞発行部数及び人員数が増加し、電力使用量が大幅に増加しました。 また、新設機には印刷空調システムが搭載されており、このシステムは、各制御盤内の快適化を図るため、外気を外調機にて除湿再加熱を行うため、空調温水の需要が増え、蒸気ボイラーの稼働時間が増えて、都市ガスの使用量も増加しました。	
第2年度	都市ガスの使用量は、コロナ対策で工場内の換気を行うため、各所扉を開放したり、空調機の外気取り入れ量を多くした事により、冬場の乾燥対策で、加湿に必要な蒸気量が増えたため、蒸気ボイラーの稼働時間が増え、使用量が増加しました。 電力の使用量は、コロナの影響で、本紙の頁数が減少した事に加え、イベントの中止等で別媒体が極端に減少したために、新聞印刷機の稼働台数及び稼働時間が短くなり、第1年度より減少しています。 CO2排出量が基準年度より若干多いのは第1年度の説明通りです。	
第3年度	都市ガスの使用量は、熱源設備更新の1つである空冷チラーの更新に伴い、必要な温水を確保するために蒸気ボイラーの稼働時間が増え使用量が増加しました。 電力の使用量は、空冷チラー更新に伴い温水作成を蒸気ボイラーで賄った為、また、コロナの影響で本紙の頁数が減少した事に加え、イベントの中止等で別媒体が極端に減少したために、新聞印刷機の稼働台数及び稼働時間が短くなり、第1、2年度より減少しました。基準年度より電力使用量は増加しましたが、排出係数が低下したため、温室効果ガス排出量は基準年度より減少しました。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		設備更新工事が2018年度で終了し、2019年度から設備の稼働が4セットから5セットに増加しました。コロナ禍の影響で生産数量は減少したものの、エネルギー使用量は基準年度より増加しました。基準年度に対し電力の排出係数が低下したため、温室効果ガス排出量は減少しました。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		空調設備、熱源設備更新などがまだ着手されて間もないので、対策における削減はこれから見られると思います。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況(全社目標)(任意記載)

朝日新聞社の環境行動計画では、エネルギー消費原単位を年平均で1%削減を目標としている。直近の5年度間(2016~2020年度)平均原単位変化は97.2%だった。省エネ法の事業者クラス分け評価制度では、Sクラスを維持している。
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>朝日プリンテック川崎工場における措置は以下の通り。 1. 照明器具の運用管理 ・高効率の照明(Hf器具)、及びLED器具へ順次、更新。その際、照明スイッチに人感センサーの設置を採用していく。 ・照明スイッチのグルーピング化の見直しと、こまめな消灯の心掛け。 ・食堂の照明器具をLED器具に更新。 ・人感センサー設置(5か所) 2. 空調設備の管理 ・空調スケジュールの見直しと、季節による運転時間の変更。 3. 空調、熱源設備更新 ・工場の老朽化している空調、熱源設備の見直し、更新。</p>
<p>第1年度</p>	<p>1. 照明器具の運用管理 ・照明スイッチのグルーピング化の見直しと、こまめな消灯の心掛け。 2. 空調設備の管理 ・空調スケジュールの見直しと、季節による運転時間の変更。 3. 空調、熱源設備更新 ・工場の老朽化している空調、熱源設備の見直し、更新検討。</p>
<p>第2年度</p>	<p>1. 照明器具の運用管理 ・照明スイッチのグルーピング化の見直しと、こまめな消灯の心掛け。 ・3階廊下及びトイレの照明器具をLED器具に更新及び人感センサーの設置 ・屋外灯をLED器具に更新 2. 空調設備の管理 ・空調スケジュールの見直しと、季節による運転時間の変更。 3. 空調、熱源設備更新 ・工場の老朽化している空調、熱源設備の見直し、更新検討。</p>
<p>第3年度</p>	<p>1. 照明器具の運用管理 ・照明スイッチのグルーピング化の見直しと、こまめな消灯の心掛け。 2. 空調設備の管理 ・空調スケジュールの見直しと、季節による運転時間の変更。 3. 空調、熱源設備更新 ・工場の老朽化している空調、熱源設備の見直し、更新検討。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>運用管理に関しては日々の業務で意識改善を図れた。 設備更新に関しては今後順次更新予定。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電	規模：100kw 導入場所：川崎工場	2012年設置

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	
第1年度	
第2年度	
第3年度	

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<p>1. グリーン購入の推進 2. 廃棄物の削減と分別化の推進 3. 輸送委託業者に対する川崎市エコ運搬制度の要請 4. 川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)への参加</p>
第1年度	<p>川崎工場では、生産設備の稼働台数が、基準年度には4セット稼働だったものが、2019年度より5セット稼働に増加しました。そのため、印刷部数や関連資材、作業人員についても増加しました。 上記の理由により、廃棄物の総量も増加すると予測し、目標値を基準年度実績比+19.7%(71,805kg)と設定しましたが、廃棄物の削減と分別化を徹底した事により、基準年度(59,970kg)に対し19年度は(66,205kg)となり、基準年度比+10.4%で目標を達成できました。</p>
第2年度	<p>川崎工場として、廃棄物の削減と分別化を推進し、廃棄物の総量を基準年度の59,970kgから46,555kgに、基準年度比22.34%削減出来ました。</p>
第3年度	<p>川崎工場として、廃棄物の削減と分別化を推進し、廃棄物の総量を基準年度の59,970kgから39,822kgに、基準年度比33.6%削減出来ました。</p>

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	3,534 t-CO ₂	3,771 t-CO ₂	3,561 t-CO ₂	3,459 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	1,834 KL	1,983 KL	1,911 KL	1,894 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
株式会社 朝日プリンテック 川崎工場	中原区西加瀬19-1	3,530	3,768	3,558	3,457

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度